観光ボランティアガイドつるが　広報誌　第42号　　令和5年1月1日発行

ゆりかもめ
yurikamome

巻　頭　言　　越の秀嶺　大原山　西福寺　　住職　　二橋　信玄

北陸の名刹、骨佛の寺で知られる西福寺は、正平二十三年、良如上人智水大和尚が開基せられてよりすでに六百五十余年の星霜を経ております。寺伝によれば、後光厳天皇（北朝）より寺領と伽藍建立の勅許を、後円融上皇より『勅願所』の院宣を賜る等の他、阿弥陀堂本尊は平重盛公の念持佛であることや、御影堂の法然上人尊像は上人七十一才当時の御自作と言われ、弟子の勢観房が浄土宗念佛弘通のため北陸地方勧化行脚のおり奉持された法然上人の御分身像といわれております。

かつては七堂伽藍を備え五十三ヶ寺の末寺と二十町歩に及ぶ田畑を有し、浄土宗の別格本山の威容を誇り、尚且つ、全国的にもまれにみる御影堂づくりの古刹として知られています。

平成二十年に、阿弥陀堂についで御影堂（大殿）・書院・庫裏が重要文化財としての国の指定を受け、さらに他の六棟の堂宇も市指定文化財として脚光を浴びる機会を得たことを機に、これら西福寺に伝わる貴重な文化財の数々と伝統建造物を継承保存すべく、市内外の政治・経済・文化・観光等、各界・各層の文化財愛好の識者、広くは市民の方々のご理解、ご支援をいただいて新たに西福寺文化財修理事業奉賛会を設立し、これら建造物文化財の修復整備の大事業完遂に邁進いたしております。

名刹　西福寺修復のために特段のご理解とご協力を賜りますよう伏して懇願申し上げます。

合掌

ごあいさつ　　西福寺　寺務所　中村　尊子さん

ようこそ皆様、西福寺にご縁くださいました！『東の氣比神宮、西の西福寺』または『古のテーマパーク』西福寺でございます。アピールポイントはいくつもありますが、天皇の願いによって始まり、歴代将軍の祈願所にもなって数々の支援もいただき続け、歴代住職は天皇のお側に呼ばれたり将軍に近い方から幾人もでて家康のお孫さんが住職？！こんなにすごいお寺があるんだと、ここで仕事をさせていただくようになってから知った敦賀のすごいことの一つです。

改めまして、西福寺寺務の中村尊子でございます。

いよいよ！総本山とそう変わらないくらいの大きな大きな御影堂が修復に入りますが、この大きさですから修復完了予定は十年後。庫裏（くり）（寺務所等があるエリア）と大玄関はそこから五年かけて修復です。このような大事業は敦賀市にとってもこれ以上ないもの。力の入り方が違います。市の補助要綱を変更しての大応援をいただきます！前々から皆さんにこの西福寺の空間を体験体感しにいらしていただきたいと願ってきましたが、ますますこの想いは強くなります。何度でも堪能したくなる西福寺、つい行きたくなる仕掛けをつくりますよ！

INFORMATIONs

☆敦賀市立博物館

コレクション展　「刀剣資料公開展～郷土の刀剣と安田コレクション～」

第２期　１月５日（木）～１月31日（火）「敦賀の古刀と若狭路の刀工」
第３期　２月１日（水）～２月23日（木）「安田コレクション」
各期刀身・刀装具を１５、６点展示予定

第20回吉継カフェ（大谷吉継研究の最前線）　（於：きらめきみなと館　小ホール）

大谷吉継の出自や生涯で、何を思い何を行い何を成したのか、そして、交通の要衝である敦賀支配をまかされた知将、友情に殉じた勇将、などなど彼の事績や武将としての活躍などが紹介されます。
2023年１月21日（土）　13:30 ～ 15:30

☆福井県立歴史博物館

写真展　「没後100年御用写真師・丸木利陽とその作品」１月３日（火）～５月９日（火）

丸木利陽（まるき りよう）は、福井城下に生まれ、明治～大正期に活躍した写真師です。東京で修行して写真館を開業し、明治天皇の「御真影」を撮影した御用写真師として知られています。

ガイドの依頼・問合せ

ガイドの依頼及び問合せは、敦賀観光協会にて受付けています。申込み用紙は、下記のアドレス（敦賀観光案内サイト漫遊敦賀）からダウンロードし、必要事項を記入していただいた後、敦賀観光協会宛てにお送りください。

敦賀観光協会　TEL　0770－22－8167
FAX　0770－22－8197
https://www.turuga.org

ガイドメンバー募集中

観光ボランティアガイドつるがは、随時メンバーを募集しています。敦賀のことをもっと知りたい方、観光に来られた方に紹介したい方、人と接するのが好きな方、入会に制限はありません。下記の連絡先までお気軽にお問い合わせ下さい。

ボランティアガイドつるが　TEL　0770－21－0056
敦賀観光協会　TEL　0770－22－8167

編集後記

皆さんにとってのお寺さんはどのような場所でしょうか。

子供の頃の私には、夏の合宿や肝試し、ソフトボール大会に備えての境内での練習など学校から帰って皆と集合するとても身近な場所でした。

今回、西福寺さんを取り上げましたが、早朝には近所の皆さんがお参りされ、昼間は観光のお客さんの訪問があり、四季折々の景色、美しさに触れていらっしゃいました。

西福寺は、勝運の寺とも言われています。南北朝の動乱の頃、後小松天皇は、国民の困窮を嘆かれ、一日も早い戦乱の終結と平和の到来を切望され、良如上人に、越前敦賀の西福寺にて祈願するよう勅命を下されました。良如上人が祈願を始めてから二年目には戦乱は収斂し、南北の統一朝が実現し、後小松天皇が初代の統一天皇として即位されました。それ以後、西福寺は戦勝と平和到来を祈願する勅願寺とされています。

ウクライナを始め、世界各地の紛争の終結、平和を願って、西福寺を訪問されては如何でしょうか。

（将）

発行者：観光ボランティアガイドつるが　　連絡先：〒914-0079 福井県敦賀市港町1-25 敦賀鉄道資料館　TEL・FAX 0770-21-0056

観光スポット紹介

敦賀のみどころ ⑤ 越の秀嶺 大原山 西福寺

西福寺は、敦賀平野北西部の通称大原山の南麓にある浄土宗の大寺院です。寺伝によれば1368年、良如上人の開基で、上人が敦賀で阿弥陀三尊が原の地に留まったのを見て、自ら創建したと言われています。

西福寺には、ここでは書き表せない歴史と見どころが沢山あり、様々なイベントも開催されています。

西福寺境内の見どころ

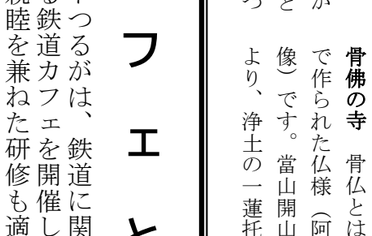
御影堂（重要文化財）

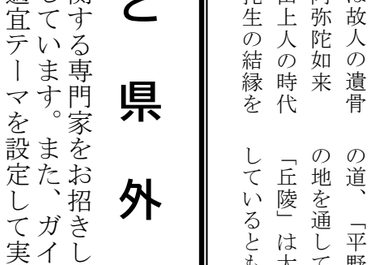
御影堂は、1811年の建立で、入母屋造桟瓦葺の十四間四面の堂々とした御堂で、地元では大殿と呼ばれています。円光大師（法然上人）の木像、その両脇に開山上人（良如上人）と中興上人（道残上人）の像を祀っています。

阿弥陀堂・渡廊下（重要文化財）

阿弥陀堂は、1593年に越前一乗谷から移築したと伝えられ、もとは小規模な仏堂でしたが、西福寺に移築した際、裳階付き重層の仏堂に改築したようです。特徴ある二重屋根の「阿弥陀堂」です。

渡廊下は、国内でもここ以外に例を見ない貴重な構造物です。阿弥陀堂の北側から3箇所の折れで雁行しながら池の上を渡り、御影堂の西側に接続しており、「四修廊下」と呼ばれています。





書院及び庫裏（重要文化財）

庭園に面して建つ書院は、切妻造銅板葺の建物で、南側に庫裏がつながっています。

庫裏は、切妻造桟瓦葺ですが、もとは板葺であったと推測されています。

書院庭園（国指定名勝）

江戸中期の作庭で、上方の三尊石を要として扇形に開く斜面の随所に立石を配し、手前下方に園池を設けて極楽浄土を表現したと言われています。書院や渡廊下などとよく調和し、四季折々の表情を見せてくれます。

西福寺の各種イベント

西福寺では、住職による法話を始め、茶会など様々なイベントが開催されています。参加に際しては実施状況などを確認下さい。

暁天（ぎょうてん）講座（夏の早朝法話）：八月三日～四日）

京都ではおなじみの夏の風物詩を西福寺でも行っています。朝六時スタート。三日は西福寺住職が、四日は特別ゲストが登場します。お話しの後は、地区婦人部の手作りお粥と香の物をご供養としてお召し上がりください。

法話の会（毎月三日）都合により休みの月があります

午後二時より。住職と一緒に南無阿弥陀仏を唱えたら、時事関連から生きる上での智恵まで、幅広い話題をご一緒にお聞きしましょう。

修養会（日時応相談）

読経・写経・清掃で心も躰も清らか穏やかに。研修として人気の体験会です。

回廊カフェ（不定期開催、金・土曜・要予約・有料）

四修廊下からの名勝庭園や巨木スダジイを眺めながら茶懐石弁当と抹茶をお楽しみいただきます。庭園のちいさな滝の音、優しく流れる風に癒しを感じられます。

ミニ回廊カフェ（不定期開催・要予約・有料）

四修廊下にて特注テーブルで一人の時間を堪能できます。抹茶と特製西福寺せんべいでお過ごしください。

幽玄茶会（不定期開催・要予約・有料）

自然の音だけに包まれながらライトアップされた庭園を眺めます。

日中とは違ってみえる西福寺を一服の抹茶とともに楽しめます。

西福寺連絡先：
電話（22）3926

西福寺のおはなし

開創縁起　良如上人が布教行脚の途中で敦賀湊を過ぎたころ、笙ノ橋より西、光明の中に往立する阿弥陀三尊を見て、光明をたどりこの地（原）に来たところ、白狐があらわれて山麓にいたると三尊はたちまちに大石、三尊石と化しました。

不思議な気持ちで鍬をふりますと、地中より銀匙、銅鉢、和同開珎銭が出ました。これは仏法有縁の地であったこと、その昔の伽藍の跡です。上人はここに一宇建立の志を決しました。

後光厳天皇がこの奇瑞を聞き及び、伽藍建立の勅許を下されました。

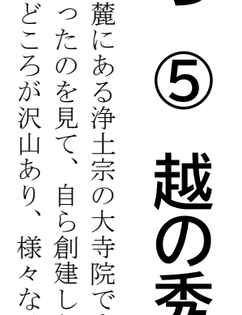
越の秀嶺　西福寺は、徳川家が浄土宗に篤く帰依していたことにも縁りますが、福井藩とのつながりが深い寺です。

徳川御三家・御三卿・越前松平家の方がご住職となられた寺は『秀嶺』と呼ばれ、西福寺は特に十五弁の三つ葉葵の紋の使用を許された寺です。

西福寺二十一世見蓮社正誉上人良和呑榮大和尚は、福井藩主結城秀康公の庶子であり、松平忠直公の異母弟にして、西福寺興隆に尽力した大徳です。山内には、書院（結城秀康公寄進）や鬱金桜（松平忠直公御手植）、また宝物として越前松平家との関係がしのばれる古文書・文化財が多く遺されています。また、現在も、徳川歴代将軍の位碑を奉安しています。

骨佛の寺　骨仏とは故人の遺骨で作られた仏様（阿弥陀如来像）です。當山開山上人の時代より、浄土の一蓮托生の結縁を請い願い沢山の信者縁者が納骨されます。十年を刻期とし、千部納骨大法要を勤め、尊骨を以て倶会一処の舎利如来として造立し、遺族縁者がお参りできるように、境内に「骨仏（舎利如来）」をお祀りしております。

四神相應の地　第十五世中興道残上人は、この地を四神相應の地として、佛菩薩・天神地祇に守護られた念佛弘通の最たる地であると讃えています。天の四神の方角に相應した地上で最良の地勢をいい、東に流水、西に大道、南に平野、北に丘陵のある地をいいます。この地に於いて、「流水」は波頭逆巻く日本海、「大道」は西方極楽浄土への道、「平野」は野坂山麓一帯の地を通して大きく都を指し、「丘陵」は大陸（唐天竺）を指しているともいわれます。



鉄道カフェと県外研修

観光ボランティアガイドつるがは、鉄道に関する専門家をお招きした講演会を広く市民の皆さんにご紹介する鉄道カフェを開催しています。また、ガイドつるがの会員自らの研鑽と会員相互の親睦を兼ねた研修も適宜テーマを設定して実施しています。

鉄道カフェ
新幹線がやってくる 4

新幹線敦賀駅の壁面はきらきら光る波の海原。そこから翼を広げて飛翔するユリカモメの大屋根が市街からでも見えてきました。

11月26日に、「新幹線がやってくる」と題した4回目となる鉄道カフェが開催されました。今回は鉄道・運輸機構の阿部祐介様から、新幹線の概要や敦賀駅と車両基地についてご説明頂きました。

敦賀は北陸新幹線の終着駅になります。駅のホームは2面4線の広い駅になり、3階は新幹線発着ホーム、1階は在来線特急が発着し、2階は乗り継ぎの広いコンコースとなります。乗り換え改札口は米原駅の3倍近い19通路にもなるようです。コンコース井で、柱には敦賀の山車の水引幕を模したものも展示されるとのことです。

また、車両基地についての説明では、新幹線の車庫や検査線が11線配置され、その広大さに驚かされました。

敦賀は、明治に日本海側に初めて鉄道がやってきた街です。今度は東京からの終着駅になります。

2024年の開業時には沢山の人が敦賀に来られるでしょう、満足して頂けるようなおもてなし力をつけたいと感じました。

野添　功

県外研修
京都鉄道博物館視察

鉄道開業150年の記念の年に、鉄道の近代化までの歴史を学び、私たちの街敦賀が、その黎明期にはたした役割を再認識するための研修でした。

博物館で一番楽しみだったのは、保存されている蒸気機関車D511との対面でした。この形式の蒸気機関車（SL）は、昭和11年から製造されました。その第1号機として敦賀機関区に配属されたもので、正面に掲げられた金色に輝く「D511」の文字板を仰いで、あぁ…、86年前、このSLが敦賀の街を走り抜け日本の近代化を支え大きく経済と文化を進展させたのかと思い、しばし感慨に浸りました。

そして、この鉄道があったからこそ、1940年に命のビザを携えた数千人のユダヤ人難民が敦賀港に上陸し、命が救われたのです。悲惨な戦争の時代に翻弄されながら、それでも汽笛を鳴らし、SLは走っていたのです。80トンの巨体に鞭うちながら、勇気と希望を届けるために走り抜けたのではないでしょうか。

『今あるもの（歴史・遺産）を生かす。今生きている人が伝える。』（廃線トンネル等研究家　花田欣也氏）

先人たちが残してくれたこの鉄道遺産（令和2年『日本遺産』に認定）を大切にし、この物語を誇りとして、これからも伝えて行きたいと思っています。

浜　康行